2023.9.18　『すいき祭 2021』を再掲

地域シリーズ ： 『ずいき祭』と上七軒

秋は祭りの季節です。京都で先陣を切るのが北野天満宮『ずいき祭』です。この祭りは，天神さんを乗せた鳳輦（ほうれん）が巡行するだけでなく，農作物で作られる「瑞饋神輿（ずいきみこし）」が御旅所で飾られ，還幸祭の日に巡行します。その色鮮やかな神輿に上七軒の芸舞妓さんたちも見物し，祭りに花を添えます。今年は，コロナ禍で昨年と同様に神事のみでしたが，瑞饋神輿は作られ御旅所で展示されました。昨年は北野天満宮でも展示されましたので，その様子をご案内します。

《ご紹介》

『ずいき祭』は，秋の昼ズイキなどの色鮮やかな農作物で作った神輿「瑞饋神輿」が，北野天満宮の氏子地域を巡る独特の祭りだ。

10 月 1 日から 5 日まで行われる祭りに先立ち，前月から農作物の収穫や準備作業が行われ，月末にズイキを収穫して翌 1 日に飾り付け瑞饋神輿が完成する。

この祭りは，平安時代に西之京神人（にしのきょうじにん）が五穀豊穣を感謝し，新穀蔬菜に草花などを飾り付け，菅原道真公の神前に供えたのが始まりとされている。祭り初日は神幸祭。北野天満宮の三基の鳳輦が本社から御旅所（北野神社御旅所）に向かい，御旅所で三日間駐輦される。4 日に還幸祭が営まれ，御旅所から北野天満宮へ帰っていく。

一方瑞饋神輿は，1 日から 4 日まで御旅所で飾られ，4 日に各町内を賑やかに巡行するが，北野天満宮の境内に入ることなく御旅所に戻る。神幸祭，還幸祭，瑞饋神輿のルートはそれぞれ異なるが，巡行範囲は北が北野天満宮，南が三条通，東が千本通，西が木辻通である。そして翌 5 日は祭り道具の片付けの後，后宴祭と八乙女「田舞（たまい）」奉納をもって祭りは終了する。

今年は，コロナ禍で昨年と同様に鳳輦渡御が中止となり，神事のみが行われたが，瑞饋神輿は作られ御旅所で展示された。

農作物で作られる「瑞饋神輿」は実に見事だ。屋根には赤の[唐の芋]と緑の[真芋]の 2 種類のズイキを使い，それらの軒先を丁寧に切

➢ 瑞饋神輿 2020（北野天満宮にて）

➢ ずいき祭 2021（北野神社御旅所）

屋根飾る
唐と真芋の
ズイキかな

り揃えて葺く。唐の芋の頭芋や赤ナス，五色トウガラシを巧みに使い，千日紅の花を糸で通して装飾する。稲藁の梅鉢紋には夏みかんと稲穂を付ける。「西ノ京瑞饋神輿」は京都市登録無形民俗文化財で，西ノ京瑞饋神輿保存会によって継承されている。(資料 1)

巡行ルートの一つ上七軒通は，北野天満宮の門前町として形成された花街であり，その歴史的な街並みから「界わい景観整備地区」に指定されている。

上七軒の地名は，1444（文安元）年北野天満宮社殿が焼失した際，社殿修築の残材を使って東門前の松原に七軒の茶屋を建て，参詣人の休憩所としたことに始まるという。豊臣秀吉が北野松原で大茶会を催した際，七軒茶屋を秀吉の休憩所にあて，名物の御手洗団子を献上したことから，五つ団子を上七軒の紋章に用いたとされる。上七軒を神輿が巡行する際には，芸舞妓さんが鑑賞する姿も一緒に見ることができるので楽しみだ。

花街のシンボルの上七軒歌舞練場は，1931（昭和 6）年に改築されたものが母体となっている。40（同 15）年に罹災し，演芸場や観覧席・食堂・待合室などを残し全体の約 6 割を焼失したが再建された。戦後は進駐軍が演舞場をダンスホールとして使用したが，52（同 27）年の「北野おどり」の創設をもって歌舞練場としての本来の姿を取り戻した。

上七軒歌舞練場は，観覧席部分の大屋根が木造の入母屋造桟瓦葺だが，舞台部分は鉄筋コンクリート造 2 階建て・外壁タイル貼りであり，木造とコンクリート造を組み合わせた独自の構成となっている。玄関ホール廻りには，池に高覧を巡らせた渡り廊下を設け，巧みに観覧席へ導いている。この歌舞練場は建築的特性のみならず，火災後の復旧や戦後の変遷など，京都の歌舞練場の近代史を示す遺構としても貴重とされている。(資料 2)

- 西ノ京の農作物

- 上七軒

- 上七軒芸妓組合／北野天満宮東門

- 上七軒歌舞練場

七軒の軒
風誘う五つ団子

資料 1：「京都の祭り・行事－京都市と府下の諸行事」京都ふるさと伝統行事普及啓発実行委員会　2020 年

資料 2：「京都市の近代化遺産－京都市近代化遺産（建造物等）調査報告書（近代建築編）」京都市文化市民局文化財保護課　2006 年